

**全国のプレママとママ 1,120人に聞く「母子手帳・電子母子手帳利用実態調査」**

**早いママはもう使っている！ 電子母子手帳、7割が利用したい**  
電子母子手帳の認知率はまだ低いものの、プレママ&ママたちの利用意向はとて高い  
紙と電子のお互いのメリットをよく理解し、上手に使い分けるのがポイント！

女性の健康情報サイト『ルナルナ』など、ヘルスケアサービスを中心としたモバイルコンテンツを運営する株式会社エムティーアイでは、近年のワーキングマザーの増加に伴い、子育てや育児支援に対する社会的な関心が高まるなか、ママと赤ちゃんの健康を生まれる前から見守り続ける母子手帳の利用実態調査を実施しました。

- 調査時期：2016年4月6日（水）～4月11日（月）
- 調査方法：インターネット調査
- 調査対象：母子手帳を持ちスマートフォンを利用している妊娠中の女性400人と長子が4歳未満の子どもを持つ母親720人、合計1,120人

**母子手帳はママになったことの記念の証し**

提出する機会が多くプライベートなことは書きたくても書けないといった声も・・・

プレママ&ママにとって、母子手帳は「母親になった証し」（76.3%）となる記念的な存在だが、「必要最低限なこと以外あえて記録しない」（35.2%）という声もあり、母子手帳にはプライベートなことが書きにくいと感じている現状も・・・〈1p〉

**大切な母子手帳だからこそ、もっと使いやすくなしてほしい**

手書きや携帯性など、母子手帳に不便を感じたことのあるママは8割

ママにとっての記念となる母子手帳だが、「交付に出向くこと」「交付に仕事を休まなければならないこと」や、「書き込むのが面倒」、「携帯し忘れる」など、スマホ世代のプレママ&ママたちは不便を感じていることも・・・〈2p〉

**プレママ&ママ注目の電子母子手帳。知ると使いたい派は75%超に！**

紙と電子それぞれの良さを生かした相互補完の関係で母子手帳を便利に活用

電子母子手帳を市区町村で導入しているかどうかの認知率は低いものの、存在を知ると75.8%が「使いたい」と回答・・・〈3p、4p、5p〉  
紙は「直筆」「子どもへのプレゼント」「出生印」、電子は「写真や動画の記録」「データのグラフ化」「アラート機能」など、  
各々の良さをうまく使い分けることがポイントに・・・〈5p〉

**電子母子手帳の導入は自治体の新しい子育て支援策に！？**

プレママ&ママたちの街選びは「子育て支援の充実度」を重視

プレママ&ママたちが暮らす街を選ぶ基準は、「子育て支援の充実」と「保育園への入りやすさ」。彼女たちの約7割が電子母子手帳の導入を熱望。子育て支援に取り組む自治体は、電子母子手帳を導入し上手に活用することで、母子との新たなコミュニケーションツールとして活用できそう・・・〈6p〉

母子手帳（正式には母子健康手帳）は自治体により対応方法が多少異なりますが、住んでいる市区町村の役所で必要書類を提出することで交付されます。母子手帳は、妊娠初期から子どもが小学校に入学するまでの母子の一貫した健康記録となるため、妊婦健診や健康相談・乳幼児健診・予防接種のほか、赤ちゃんが病気で受診するときなども持参し、携帯することが望ましいとされています。

近年働く女性が増加し企業や自治体による社会的な子育て支援策に注目が集まるなか、日々、忙しい子育て世代の母子の健康を管理するツールとして、または自治体と母子を繋ぐコミュニケーションツールとして母子手帳の在り方も、以前とは大きく変わろうとしています。そこで今回は、母子手帳を持っているプレママ400人と長子が4歳未満のママ720人を対象に、母子手帳の活用実態についての調査を行いました。

## プレママ&ママの「母子手帳」利用実態

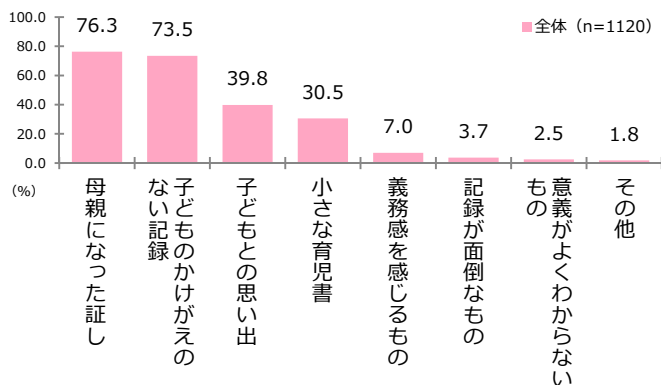
### +母子手帳はママになった大切な記念の証し

#### 母と子の健康管理ツールとして活用するも、日記などプライベートなことは記録しづらい・・・

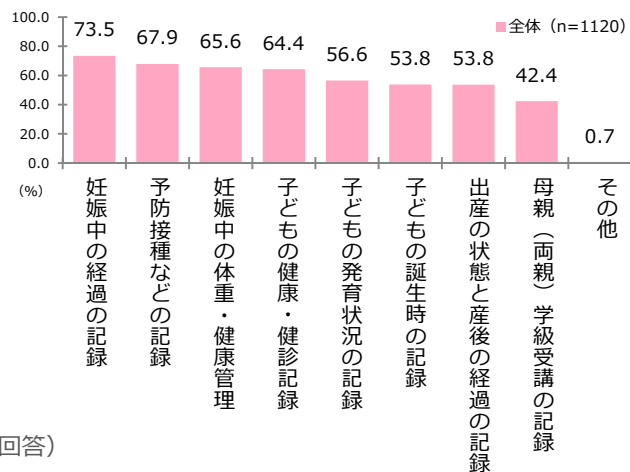
まず母子手帳をどのような存在と思っているか聞いてみると、「母親になった証し」（76.3%）、「子どものかけがえのない記録」（73.5%）、「子どもとの思い出」（39.8%）と答えており、母親になった記念という思いが強いようです【グラフ1】。

では、どのようなことに利用しているか聞いてみると、「妊娠中の経過の記録」（73.5%）、「予防接種などの記録」（67.9%）、「妊娠中の体重・健康管理」（65.6%）、「子どもの健康・健診記録」（64.4%）が上位にあげられました【グラフ2】。また、母子手帳に記録することは、「子どもの成長で気づいたこと」（32.2%）、「子どもへのメッセージ」（21.2%）などですが、最も多かったのは「必要最低限なこと以外はあえて記録していない」（35.2%）でした。しかし、記録したかったことでは、「日記（その日あったことなどを細かく書く）」（12.6%）が実際の記録率を上回っていることから、病院や自治体などで提示することの多い紙の母子手帳には、母の気持ちや思いなどプライベートなことはなかなか書きにくいのかもかもしれません【グラフ3】。

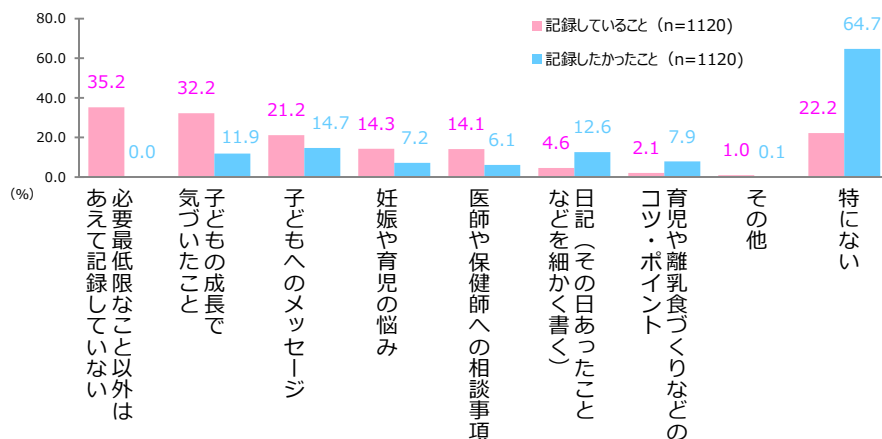
【グラフ1】 母子手帳はどんな存在か（複数回答）



【グラフ2】 母子手帳をどんなことに使用しているか（複数回答）



【グラフ3】 母子手帳に記録していること／記録したかったこと（複数回答）



## プレママ&ママの「母子手帳」に対する要望

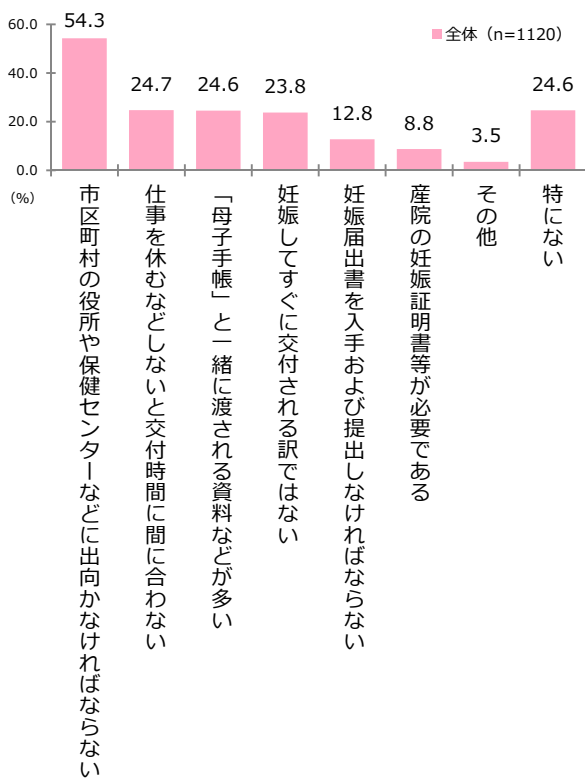
### ➤母子手帳に不満や不便を感じたことのあるママは8割。デザインを選べず、書き込みや携帯が面倒

プレママやママにとって大切な存在の母子手帳ですが、不満や不便に思うこともあり、改善されればいいと感じていることがわかりました。

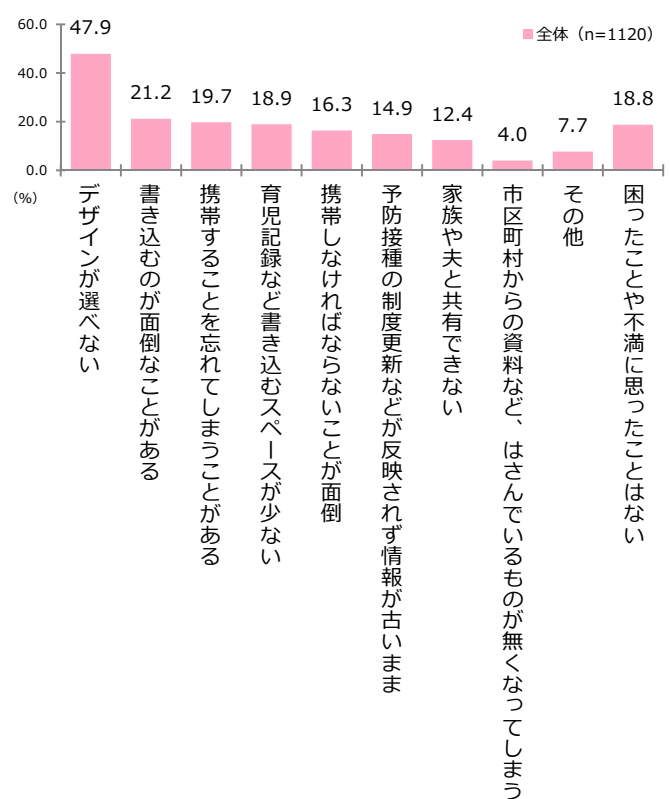
まず、交付時について最も多かったのが「市区町村の役所や保健センターなどに出向かなければならない」（54.3%）、次いで「仕事を休むなどしないと交付時間に間に合わない」（24.7%）でした。働く女性が増えるなか、市区町村の体制がママたちのライフスタイルに合わなくなっているのかもしれません。ほかにも「母子手帳と一緒に渡される資料が多い」（24.6%）、「妊娠してすぐに交付される訳ではない」（23.8%）など、さまざまなことを不便に感じていることがわかりました【グラフ4】。

また、利用時に「困ったことや不満に思ったことはない」（18.8%）が2割弱いるものの、それ以外は、「デザインを選べない」（47.9%）、「書き込むのが面倒なことがある」（21.2%）、「携帯することを忘れてしまうことがある」（19.7%）、「育児記録など書き込むスペースが少ない」（18.9%）、「携帯しなければならないことが面倒」（16.3%）などの不便な点をあげています。日常的にデジタルツールを使うプレママやママたちは、手帳に手書きしたり、新たに携帯することに不便さを感じることもあるようです。さらに、「予防接種の制度更新などが反映されず情報が古いまま」（14.9%）、「家族や夫と共有できない」（12.4%）といった指摘もありました【グラフ5】。

【グラフ4】 母子手帳の交付で不便を感じたこと（複数回答）



【グラフ5】 母子手帳を利用して不便を感じたこと（複数回答）

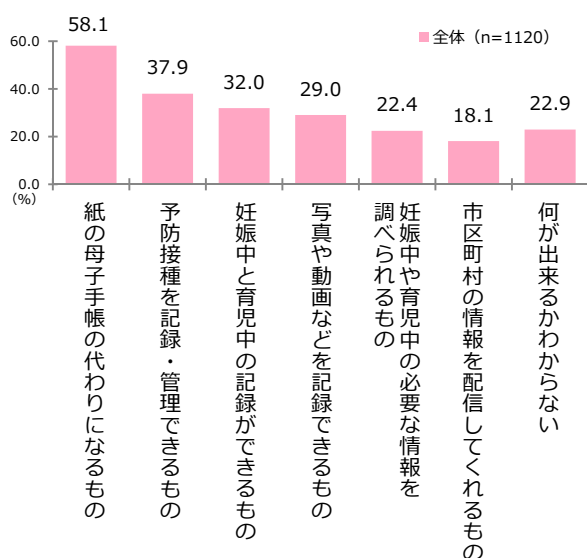


★市区町村でも導入が進む「電子母子手帳」 認知率はまだ低い、早いママはもう使っている！

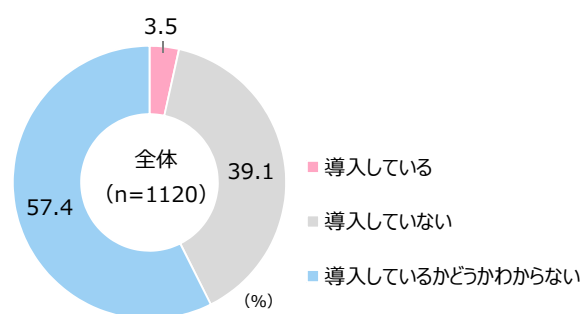
「電子母子手帳」は、母子手帳の内容をスマホ・タブレットなどで記録・管理できるもので、自治体から交付されるもののほか、企業が提供するサービスもあります。この電子母子手帳についてイメージを聞いてみると、「紙の母子手帳の代わりになるもの」(58.1%)、「予防接種を記録・管理できるもの」(37.9%)、「妊娠中と育児中の記録ができるもの」(32.0%)などがあげられましたが、一方で「何が出来るかわからない」(22.9%)という意見も見られます[グラフ6]。

自分が住んでいる市区町村で電子母子手帳が導入されているかどうかを聞くと、「導入している」3.5%。「導入していない」39.1%ですが、6割近く(57.4%)が「導入しているかどうかかわからない」と答えており、まだまだ認知が進んでいないようです[グラフ7]。しかし今回の調査では、一部の情報に早いママは、すでに活用していることもわかりました。

【グラフ6】電子母子手帳のイメージ（複数回答）



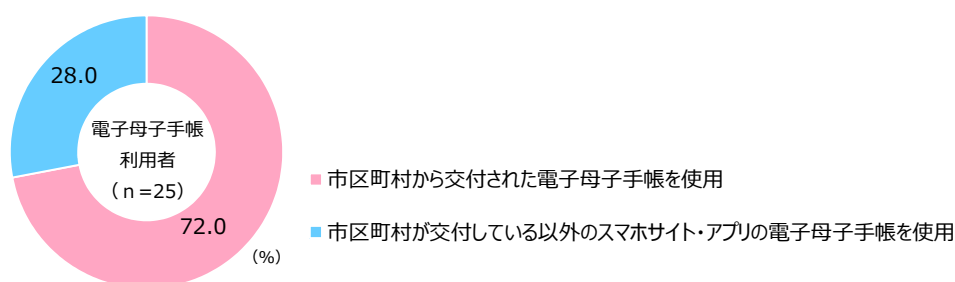
【グラフ7】居住する市区町村では電子母子手帳を導入しているか



★電子母子手帳利用者の多くが市区町村交付の電子母子手帳を活用  
利用のきっかけは意外にも「病院で存在を知って」

電子母子手帳を利用している人のうち、72.0%が市区町村が提供している電子母子手帳の利用者でした[グラフ8]。彼女たちに利用のきっかけを聞くと、意外にも「病院で存在を知って」が最も多くあげられました。自治体や病院などからの情報は、ママたちにとって信頼性が高い様子が見えます。

【グラフ8】電子母子手帳利用者のうち、市区町村の電子母子手帳使用率



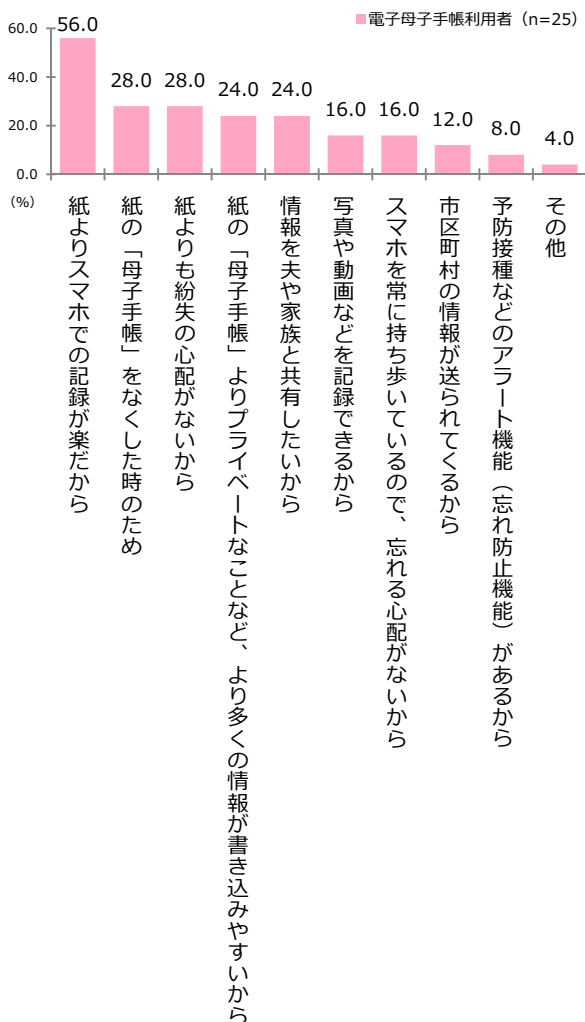
★電子母子手帳の利用者は便利に活用し、非利用者の約9割は「知らない」から使わない

電子母子手帳を利用している人に理由を聞くと、「紙よりスマホでの記録が楽だから」（56.0%）という回答がいちばん多く、次いで「紙の母子手帳をなくした時のため」、「紙よりも紛失の心配がないから」（同率28.0%）、「紙の母子手帳よりプライベートなことなど、より多くの情報が書き込みやすいから」、「情報を夫や家族と共有したいから」（同率24.0%）となり、記録の負担の少なさと紙の母子手帳のバックアップとしての機能を重視していることがわかりました [グラフ9]。

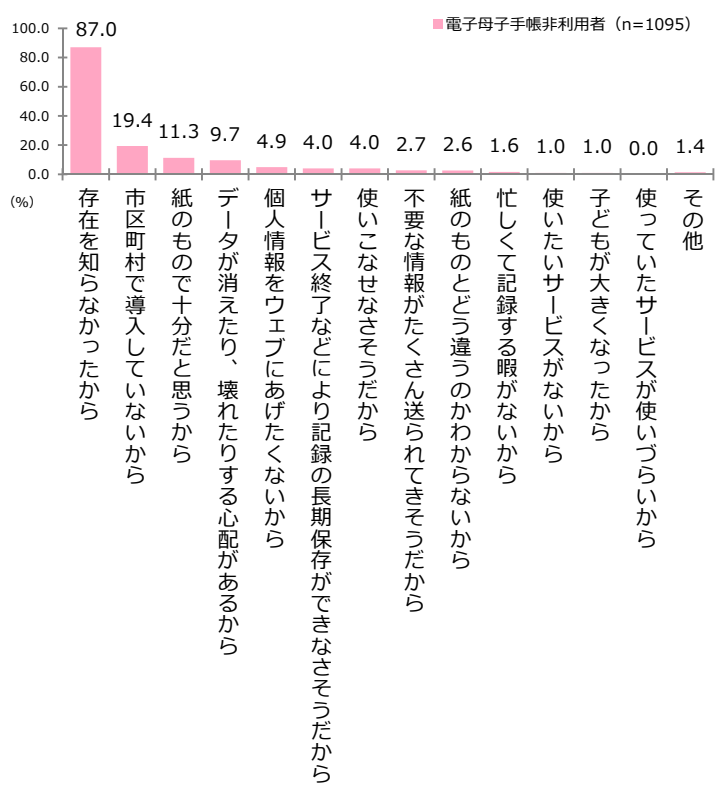
電子母子手帳利用者は、前述の紙の母子手帳への不満において（P2[グラフ5]）、「育児記録など書き込むスペースが少ない」、「家族や夫と共有できない」をあげる率が高く、そのような意見があるからこそ、電子母子手帳を並行して利用しているのかもしれません。

一方、電子母子手帳を利用していない1,095人に理由を聞くと、「存在を知らなかったから」（87.0%）という回答が最も多くなっています。前述のP3 [グラフ8] でわかるように、電子母子手帳利用者の7割以上が市区町村の交付しているものを利用しているため、自治体での導入がひろがれば利用率も一気に加速するかもしれません。

[グラフ9] 電子母子手帳を利用する理由（複数回答）



[グラフ10] 電子母子手帳を利用しない理由（複数回答）



## ＋母子手帳の各々のメリットは、紙は「直筆」「子どもへのプレゼント」「出生印」などオリジナル感、

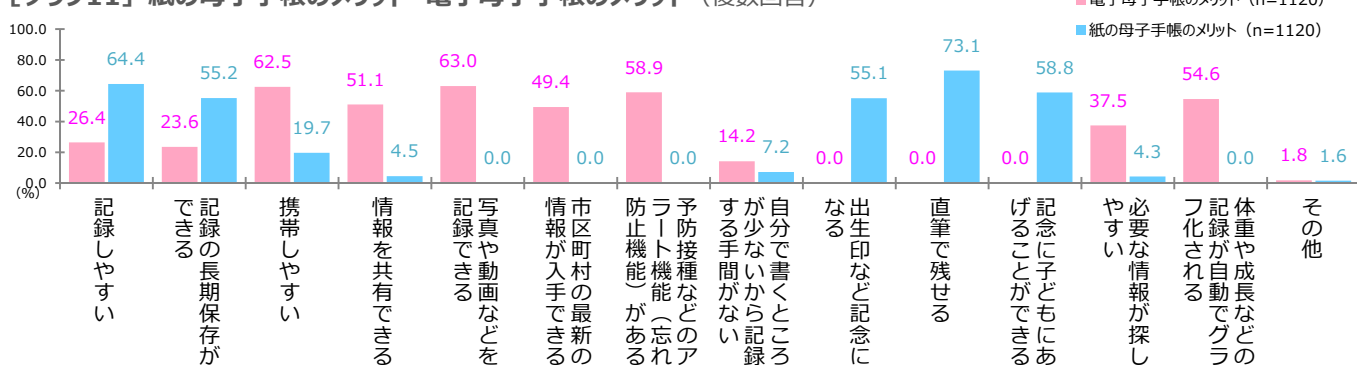
### 電子は「写真や動画の記録」「データのグラフ化」「アラート機能」など便利機能

続いて、紙の母子手帳と電子母子手帳のメリットだと思ふことをそれぞれ聞いてみました。紙の母子手帳は「直筆で残せる」(73.1%)、「記録しやすい」(64.4%)、「記念に子どもにあげることができる」(58.8%)、「記録の長期保存ができる」(55.2%)、「出生印など記念になる」(55.1%)などがあげられました。

一方、電子母子手帳は、「写真や動画などを記録できる」(63.0%)、「携帯しやすい」(62.5%)、「予防接種などのアラート機能(忘れ防止機能)がある」(58.9%)、「体重や成長などの記録が自動でグラフ化される」(54.6%)、「情報を共有できる」(51.1%)、「市区町村の最新の情報が入手できる」(49.4%)などがあげられました【グラフ11】。

紙の冊子では実現できないことを、電子母子手帳ではデジタルツールならではの機能で便利に簡単に実現できるので、今後はお互いの良さを理解して、活用するママたちが増えてきそうです。

【グラフ11】 紙の母子手帳のメリット 電子母子手帳のメリット (複数回答)



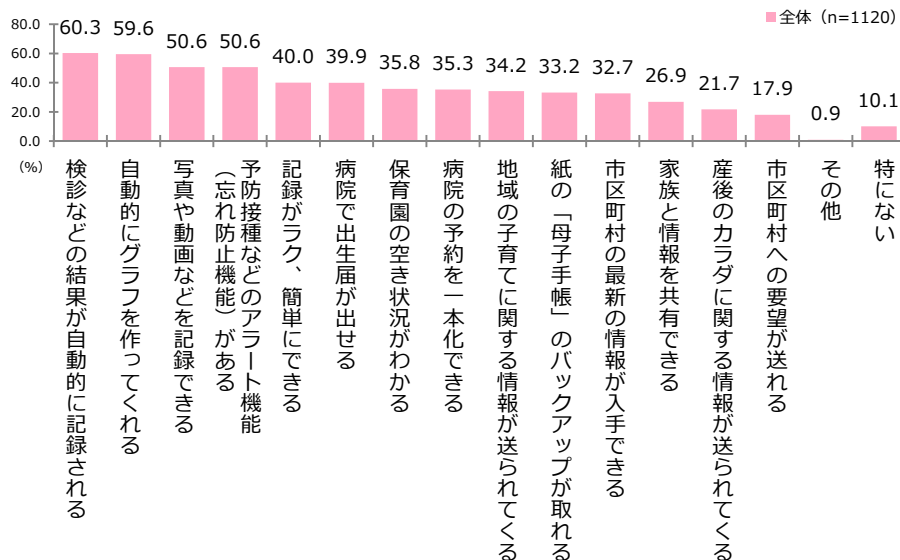
### 電子母子手帳の利用意向

## ＋電子母子手帳の機能が充実していれば、75.8%が使ってみたい！

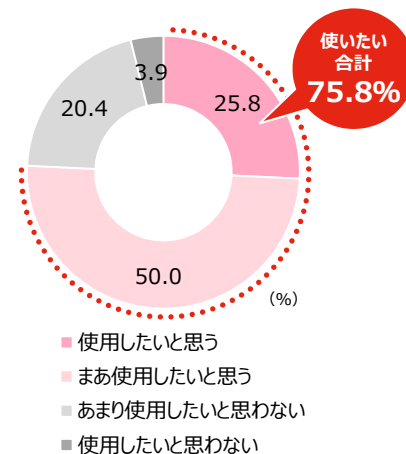
次に、電子母子手帳にどんな機能があればいいか聞いてみました。その結果、「検診などの結果が自動的に記録される」(60.3%)、「自動的にグラフを作ってくれる」(59.6%)、「写真や動画などを記録できる」、「予防接種などのアラート機能(忘れ防止機能)がある」(同率50.6%)などの機能が上位にあげられました【グラフ12】。

また、電子母子手帳を使用していない女性982人(【グラフ12】の「特にない」(10.1%)除く)に使用意向を聞くと、75.8%（「使用したいと思う」25.8%、「まあ使用したいと思う」50.0%の合計）と4人に3人が「使用したい」と答えており【グラフ13】、今後、よりいっそう電子母子手帳のニーズは高くなることが予想できます。

【グラフ12】 電子母子手帳にあっという間と思う機能 (複数回答)



【グラフ13】 左記の機能があれば、電子母子手帳を使いたい



紙の母子手帳利用者で電子母子手帳への要望がある人 (n=982)

＋街選びの最大ポイントは子育て支援！約7割が電子母子手帳の導入を希望

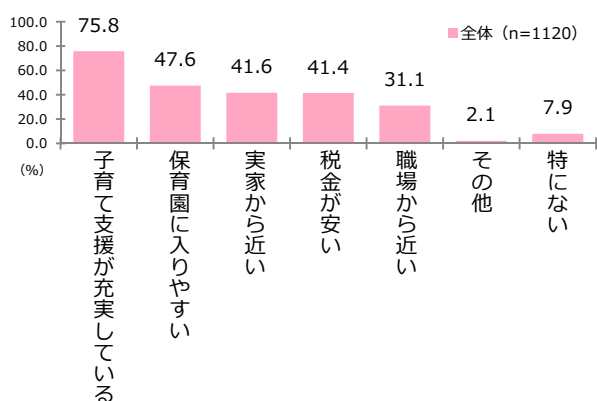
電子母子手帳導入が市区町村の新しい子育て支援策のひとつに！

最後に、自分が暮らす市区町村を選ぶときの重視点を聞くと、「子育て支援が充実している」（75.8%）が1位で、次いで「保育園に入りやすい」（47.6%）となっています。プレママやママたちは、住む市区町村を「実家から近い」（41.6%）や「税金が安い」（41.4%）こと以上に、子育て支援の充実度を重視して選んでいることがうかがえます [グラフ14]。

P3の[グラフ7]で自分が住んでいる市区町村が電子母子手帳を導入していない、導入しているかどうか分からないと答えた1,081人に、電子母子手帳を導入してほしいかどうかを聞くと、約7割が「導入してほしい」（67.3%）（「導入してほしいと思う（18.5%）」「まあ導入してほしいと思う（48.8%）」の合計）と答えました[グラフ15]。

このことから今後、市区町村による電子母子手帳の導入は、子育て支援の有効な施策となるだけでなく、その時々の子どもの状況に応じた自治体からの最新情報が受け取れるなど、自治体と母子をつなぐコミュニケーションの場となりそうです。

[グラフ14] 自分が暮らす自治体を選ぶときに重視すること (複数回答)



[グラフ15] 自分が暮らす自治体に電子母子手帳を導入してほしいか

